

資料

東洋医学の体質分類の思想である四象医学 (Sasang Constitution Medicine) について

具 然和

純真学園大学 保健医療学部 放射線技術科学科

The medical constitution classification for the four types of Oriental Medicine

Yeun-Hwa GU

Department of Radiological Science, Faculty of Health Science, Junshin Gakuen University

サマリー: 四象医学は、東武イ・ジェマ(李 濟馬)^[1]が創始した体質医学論である。つまり、四象医学とは、人の体質を4つに区分し、体質に伴う生理的、病理学、薬理を説明して病気を治療する医学である。

イ・ジェマの本「東医寿世保元」で、従来の見解に比べて現実的な側面からユニークな「四象構造論」(現代医療ではオーダーメイド医療)をもとに、太陽人、少陽人、太陰人、少陰人の四つの体質を設定した。これらのそれぞれの体質に応じて性格、心理状態、内臓の機能とそれに伴う病理、生理、薬理、養生法と食品の成分まで分類して処方する。体質に応じて、内臓の大小及び虚実が決定されており、人は生理的には、この4つの体型のカテゴリーから分類できると考えられている。

即ち、李濟馬は「東医寿世保元」「四象人弁證論」で体質診断の4つの基準は、体型気性・容貌詞品・性質才幹・病理薬理である。体型気性は、物理的特徴の体型に関する特徴であり、容貌詞品は身体的な特徴の全体的なイメージ、顔の姿と言う態度、歩行に関する特徴であり、性質才幹は、心理的な特徴の主観的な心理状態や客観的な行動の側面に関する特徴であり、病床及び薬理は普段の生活習慣や素症のような生理学的な特徴および通常の疾病状態のような病理学的な特徴に関する内容で、これらの4つのすべてを総合して、四象体質を診断することになる。

四象体質の診断基準のうち、体型気性と容貌詞品は、患者の外形的な特徴を分析する必要がある特性上、医師の客観的判断を中心に評価することが妥当である。

性質才幹は、患者の心理的な特徴を分析する必要があるため、患者の主観的判断を含めて評価することが妥当である。病理と薬理は、医師と患者との問診を通じた患者の主観的な判断と医師の客観的な判断を含めて評価することが妥当であると考えられる。

これらの四象体質の診断基準の特性上、体型気性は、患者自身の主観的な評価ではなく、専門家の客観的な評価が必要であり、これをより正確に判断するためには、直接的な計測方法を使用することが妥当であると思われる。四象体質診断に関する研究は、現在さらなる研究がすすめられている。

[1] イ・ジェマ(李 濟馬, 1837年4月23日~1900年11月12日)は、朝鮮後期の漢方医学者、文官・武官、詩人、朝鮮王族の傍系血族である。本館は全州、子は務平、号は東武である。



図1. 李 濟馬像

キーワード: 四象医学, 太陽人, 少陽人, 太陰人, 少陰人

Summary: Sasang Constitution Medicine (SCM) is a constitution medical theory and Jema Lee was the founder.

It consists of four types of medicine (SCM) and is divided into four parts based on the constitution of a person. These parts include physiological, pathological with the constitution and is used like a medicine for treating diseases using pharmacological to aid the patient.

In this 東医寿世保元 from Jema Lee, his realistic outlook includes a unique "four type structure theory" (order-made medicine in modern medicine) as opposed to the traditional view.

We have set the four constitutions as follows: Sun Human; Small Sun Human; Lunar Human and Small Shadow Human respectively. Depending on their respective constitution personality, psychological state, function and pathology.

These are associated with visceral, physiological, pharmacological and classified into components for training and which foods to eat. Depending on a person's constitution, it has been determined that it doesn't matter whether a person has a large or small build.

Certainly humans' psychological awareness can be classified from one of these four forms, previously stated.

In other words, Jema Lee's four criteria for constitution diagnosis of 体型気性, 容貌詞品, 性質才幹 and pathology pharmacology in "東医寿保元" and "四象人弁證論" are a feature of the type of physical features including appearance and a characteristic attitude. When someone is walking for example, we can see an overall image including their facial and physiological characteristics.

These are a feature on the side of the subjective physiological state and objective actions. Beds and pharmacological pathological features such as physiological characteristics and normal disease states such as one's daily habits when all of these four are combined then it becomes possible to diagnose which one of the four types is present.

Of the diagnostic criteria for the four structures, body form, well being and appearance products and with these characteristics it is necessary to analyze the external features of the patient. It is reasonable to then evaluate the central objective judgement of the physician too.

It is also necessary to analyze the psychological characteristics of the patient and it is reasonable to expect some evaluation including the subjective judgement of a patient. In order to evaluate something quite well in the pharmacology and pathology fields certain things have to be considered including a subjective judgement and the doctor's objective judgement of the patient through interviews between a physician and a patient.

The diagnostic criteria also consists of four structures. Body form is not used as a subjective evaluation of the patient and requires objective evaluation specialists. In order to determine this more accurately we feel the direct measurement method appears to be the best suited. Based on studies of these four structures for constitution diagnosis, further research is recommended.

Keyword: Sasang Constitution Medicine, Sun Human, Small Sun Human, Lunar Human, Small Shadow Human

はじめに

「東医宝鑑」に代表される従来の漢方医学は「自然 vs 人」の関係を扱った。しかし、過去の医学は「人 vs 人」あるいは一人の「精神内面の偏差」に焦点を合わせる。「東医宝鑑」が道教的自然の調和の思想であれば、四象医学は儒教的な心身の修業が漢方医学と統合したものである^{1), 2)}。

四象医学は、消耗的な哲学論争にとどまらず、これを人体の生理と病理、診断、薬の処方に至るまで一貫化している。これこそ、四象医学であると同時に、四象哲学でもある。特に韓国人をはじめとした東洋人の情緒と緊密な儒教哲学に基づいており、東洋人固有の文化的・精神的な葛藤の理解と、代案提示の観点から意義を持つ³⁾⁻⁶⁾。

西洋医学者の中には、四象医学の科学的根拠について疑問を提起することもある⁷⁾。哲学理論と融合された四象医学の体質区分が正しいかどうか、なぜ体質が分かれるか、なぜ体質ごとに異なる効

果などについて科学的方法に基づいた検証が行われなかったことも指摘される⁸⁾。

この漢方医学界は、90年代から四象医学を科学的方法に基づいて検証しようと様々な試みをし、2006年には四象医学の科学化のために、韓国政府が10年間毎年100億ウォンずつ、合計1000億ウォンを支援するイ・ジェマプロジェクトを発足させた。2015年基準でイ・ジェマプロジェクトは、四象体質の診断のための診断機の開発、診断精度の改善などの成果を果たしたと発表した。しかし、いくつかの研究が進められたにもかかわらず、2015年までに、臨床的に正確であるという体質区分の基準は発見されなかったため、四象医学の妥当性を証明すべき成果がない状態である。

今後、更なる研究により、これらの四象医学つまり、オーダーメイド医学に役に立てればと願っている。

1. 四象医学での体質分類

1-1. 太陽人

太陽人は、肺大きく肝臓が小さい。

太陽人は、孟子の4徳（仁義礼智）の中「仁」が優越な機能を持ち、「礼」が劣等な機能を持って生まれた体質である。優越機能である「人」の属性に、自然の流れを把握する直観力に優れた才能がある。すべての人に広く役に立つ人を重視する。だから、最初に会った人も公平に接し、血縁、地縁等を重視しない公平かつ真直ぐな品性である。地位や身分に関係なく、公平に付き合いと、権力や財力がなくても、特に差別せずに公平に接することを好む性格の持ち主である¹⁾⁻⁸⁾。

体格：上実下虚

首筋が大きく腰が細く、足が弱い。

健康：尿量が多ければ健康である。

性格：長所－人をあわれむ心（仁）があり、包容力が強い。

決断力があり、直立し学習を好む。

社交的で戦略・戦術が優れている。

欠点－自尊心が強く、権威を好む。

せっかちで、強圧的である。

体質病：噎膈症、反胃症、解亦症

体質別の食品と薬剤：脂肪の少ない魚介類や野菜類が良い。

穀類：そば、冷麺

フルーツ：ブドウ、マタタビ、柿、カリン

薬剤：五加皮、カリン、マタタビ、松葉



図2. 太陽人の外観

1-2. 太陰人

太陰人は、肝臓大きく肺が小さい。

太陰人は背が大きく、ほとんど体が太っている。太陰人の性格は、粘り強く我慢強くて寡黙な性格である。従って仕事を与えられると、何があってもあきらめない。そのような性格のために賭けごとによく陥ることがある。

太陰人は「礼」を優越とし、「仁」を劣等機能として持って生まれた体質である。優越機能「礼」の属性は、経験した過去を細かくよく覚えていて礼儀を重視するようになる。着実に繰り返すことを得意とし、新しいことを判断する直感的な機能は脆弱である¹⁾⁻¹²⁾。

体格：上実下虚

胸が発達して、お尻が狭く肩が発達している。

健康：大便の通じが良ければ健康である。

性格：長所－義理堅く勇敢で陽気である。

素直で勝利を好み社交的である。

感情が変わりやすいが、根に持たない。

短所－大げさであり、威張る性格である。行動が軽率で慌てる。

体質病：腎機能が弱く、膀胱や腎臓病になりやすい。

体質別の食品と薬剤：新鮮な野菜、魚介類が良い。

穀類：大麦、小豆、緑豆

シーフード：ナマコ、ホヤ、アワビ

薬剤：山茱萸、地黄、牡丹皮

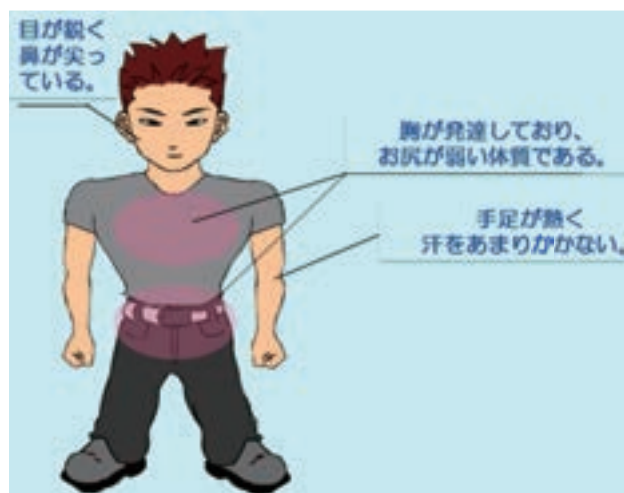


図3. 太陰人の外観

1-3. 少陽人

少陽人は、脾臓が大きく、腎臓が小さい体質である。少陽人は顔型が逆三角形であり、眉毛が綺麗で目つきが印象的である。性格は毎瞬間に自分の感情に忠実である。少陽人は肌が白い。少陽人は比較的痩せた体系が多い。

少陽人は人の振る舞いの4徳（仁義礼智）の中で「義」の属性を優越機能と持ち、「智」の属性が劣等機能として持って生まれた体質である。他の人の気持ちを把握する感情の機能は発達しているが、一人で思考する能力が脆弱である¹⁾⁻¹²⁾。

体格：下実上虚

腰が太く、上体が細く骨格が壮大である。

健康：汗を良くかくと健康である。

性格：長所－礼儀があり、誠実で思いやり深い。感情を露出されない。

行動に威厳があり、謙遜である。

欠点－傲慢であり、頑固且つ怠慢である。

臆病であり、貪欲である。

体質病：心臓病、高血圧、脳梗塞、気管支炎、喘息にかかりやすい体質。

体質別の食品と薬剤：動物及び植物性の蛋白質がよい。

穀類：豆、サツマイモ、ハトムギ

フルーツ：栗、松の実、クルミ

薬剤：五味子、麥門冬、桔梗



図3. 少陽人の外観

1-4. 少陰人

少陰（少陰人）は、腎臓が大きく脾臓が小さい体質である。少陰は、身長が小さく細身の人が多い。胃腸が弱く、消化器疾患にかかりやすい。少

陰人がかかりやすい病気の中には神経疾患もある。少陰人は共同体の生活を嫌う。内向的で恥ずかしがりやが多い。そして少陰人の体型は、下半身が多く発達して骨盤が広い。少陰人は、歩くとき猫背で歩く。顔は卵型の美男・美女が多い。また、肉食を好む人が多い。

少陰人は、仁義礼智の中で「智」を優越機能とし、「義」を劣等機能とする。これにより、少陰人は、優越機能の「智」の属性であり、直接経験したことがなくても論理的に推論して結論をだすという思考能力に優れている¹⁾⁻¹²⁾。

体格：下失上虚

お尻が大きく、胸が貧弱で小型の人である。

健康：消化がよくなると、健康である。

性質：長所－是非明白で、知恵がある。

信用があり、礼儀正しくめりはりがある。

欠点－安泰を好み、揉め事は回避する傾向がある。

疑り深く、落ち着きがなく根に持つタイプ。

体質病：冷や汗をかいたり、澄んだ水のような下痢をすると、危篤である。

体質別の食品と薬剤：暖かく淡白な食べ物がいい。

穀類：もち米、ジャガイモ

フルーツ：りんご、みかん、桃

薬剤：人參、白朮、シナモン、甘草



図4. 少陰人の外観

おわりに

生命の世界には是非も善悪も、敵も友達もいな

い。差別のない生活のための差別のない愛情、それがイ・ジェマが一生守ろうとしていた武士の心であり、医師の心であった。イ・ジェマ (李濟馬, 1837-1900) は、四象医学の創始者であり、現代医学で照らしてみるとオーダーメイド医療の始まりである⁹⁾。

四象医学と人間の体質を四象、すなわち太陽、太陰、少陽、少陰に区分して、それに応じて性格、関係方式、症、治療法を説明する医学である。

この分類によると、イ・ジェマは太陽人である。太陽人は、体が丈夫で、胸が特に発達しており、思考力に優れ、進取的で、社交的である¹⁰⁾。実際にイ・ジェマは、見知らぬ人ともたちまち仲良しになるほど親和性があり、何ことにも目詰まりがなかった。しかし、飲食を上手に飲め込めず、すぐに吐き出す (熱膈反胃症) に苦しめられた。

既存言われる「四象」とは、易学からの言葉で、漢方医学では、この言葉を引用して、理論的な体系で論述したのは、漢方医学の最大の元書で挙げる内径の二十五太人論と五太人論によるものである¹¹⁾。また、中径の傷寒論と景岳全書の陰陽論でも理論的な根拠を見つけることができる。これらと別の方法でイ・ジェマは四心身物の四象を提示して、これを基に実際の臨床を介して体得した経験を加えて新たな病理と治療方法を収集した学説で、別名体質医学とも呼ばれる四象医学を提案した¹²⁾。

イ・ジェマの四象医学は、四象という概念に体質群を固定して五臓六腑の機能の虚実強弱の視点を論じたもので、さらに人の外形的な容姿と挙動、心、性情または病理学、薬理などに至るまで、すべてが個人の体質に応じて異なるという全人的な観念に論述した。すなわち、性理学の異気性精論から出てきた性情をもとに、心が、すべての病気の原因になると認識して、心身のバランス関係で病理現象を理解する医学とも言える¹³⁾。

喜怒哀楽の性情で怒哀の気は上昇し、喜楽の気は下降するので、怒哀の気が過剰すると下焦の肝と腎が破損して喜楽の気が過剰すれば上焦の肺と脾臓が破損する。喜怒哀楽の感情の変化が人体に及ぼす病理的な現象を具体的に説明できる。つまり、人の喜怒哀楽の性情によって天性の臓腑の虚実が生じ、これにより、各体質別の臓腑の大小が

決定されるということである¹⁴⁾。しかし、ここでいう臓腑の大小は、現代医学で言う解剖学的な大小がなく、臓腑の機能的な面で、大小を意味するものである。一方、後天的な病因論でも喜怒哀楽などの感情的な要素が病気の重要な原因になると認識している。したがって、四象医学では、病気の治療においても病理現象においても一人一人の体質を中心に同じ病気でも治療方法と使用する薬剤が体質に応じて異なるものである¹⁴⁾。

四象医学の意義

「必広明医学：家家知医，人人知病，然後可以寿世保元」

(一人一人が努力して病気のない自己治癒力を望む。病気のない社会になるよう念願する。)

「妬賢嫉能，天下之大病，好賢樂善，天下之大樂」
イ・ジェマの思想の医学は肉体的な側面、精神的な側面から全体且つ具体的に観察したものである。単純な体質の鑑別ではなく、自分自身についてよく知って、感情を治め持って生まれた虚実を調節することに意味がある。心理、病理の治療だけでなく、体質に合う食べ物の摂取で養生をするように提案している¹⁵⁾。

最近のオーダーメイド医療 (Order-made Medicine) とは、個々人の個性にかなった医療を行うことであり、他にはテーラーメイド医療 (tailor-made medicine)、個別化医療 (personalized medicine)、カスタムメイド医療 (Custom-made Medicine) ともいう。

これまで医療は疾患中心であり、疾患の原因を探索したりその治療法を開発することが主な目的であった。しかし疾患の状態は個々人で千差万別であり、同じ病気であっても同じ治療法を適用することが必ずしも正しくないことは以前より知られてきた。しかし一方でそのような治療効果の個人差は治療とその効果を観察しなければ分からないものであり、個々人に最適な治療計画を行うことは難しかった。

一方、ヒトゲノム計画による DNA 配列の解読や個々人で異なる一塩基多型 (SNP) の特定、DNA マイクロアレイなどによる大量の情報を瞬時に取得できる技術の発達によってある個人が他人とどのように異なるかを観測できるようになっ

てきた。そこでこれらの情報を利用して、ある患者個人に最適な治療方法を計画することをオーダーメイド医療という。

具体的にはある治療薬がその患者に有効であるかどうか、あるいは投薬量や副作用について見積もることでの治療薬を用いるのが正しいか、どの程度の投与を行うかに行ったことが分かるようになることが期待されている。

しかし、イ・ジェマの思想の医学は100年以上前に個別化医療、つまり全体且つ具体的に診療が必要であると提唱している。従って、今後の医療とは、医療人は全てが総動員し、総合的に診て行く必要がある。また、個々の患者に見合った医療を施していかなければ、完全な治療は益々難しくなるであろう。

引用文献

- 1) Noble D. "Could there be a synthesis between western and oriental medicine, and with Journal of Sasang Constitutional Medicine in particular?" *Evidence-Based Complementary and Alternative Medicine*, 6: 1, 5-10, 2009.
- 2) Kim JY, and Pham DD. "Journal of Sasang Constitutional Medicine as a holistic tailored medicine," *Evidence-Based Complementary and Alternative Medicine*, 6:1, 11-19, 2009.
- 3) Chae H, Lyoo IK, Lee SJ. "An alternative way to individualized medicine: psychological and physical traits of Sasang typology," *Journal of Alternative and Complementary Medicine*, 9: 4, 519-528, 2003.
- 4) Lee J, Jung Y, Yoo J, Lee E and Koh B. "Perspective of the human body in Journal of Sasang Constitutional Medicine," *Evidence-Based Complementary and Alternative Medicine*, 6:1, 31-41, 2009.
- 5) Chae H, Park SH, Lee SJ, Kim M, Wedding D and Kwon Y, "Psychological profile of sasang typology: a systematic review," *Evidence-Based Complementary and Alternative Medicine*, 6:1, 21-29, 2009.
- 6) Lee EJ, Sohn EH, Yoo JH. "The study of Sasangin's face," *Journal of Sasang Constitutional Medicine*, 17:3, 55-68, 2005.
- 7) Koo I, Kim JY, KimHG and Kim KH. "Feature selection from a facial image for distinction of sasang constitution," *Evidence- Based Complementary and Alternative Medicine*, 6: 65-71, 2009.
- 8) Yang S and Kim D. "A study on the correlation between sound Spectrogram and Sasang constitution," *Journal of Sasang Constitutional Medicine*, 8:2,191-202, 1996.
- 9) Kim D, Park S and Gun G, "An objective study of Sasang constitution diagnosis by sound analysis," *Journal of Sasang Constitutional Medicine*, 10: 1, 65-80, 1998.
- 10) Koh BH and Song IB. "A study on the method of Sasang constitution classification," *Journal of Korean Journal of Oriental*, 8:146-150, 1985.
- 11) Kim SH, Koh BH and Song IB, "A validation study of questionnaire of Sasang constitution classification (QSCC) ," *Journal of SasangConstitutionalMedicine*, 5:1, 61-80,1993.
- 12) Yoo JH, Kim JW, Kim KK, KimJY, Koh BH and Lee EJ. "Sasangin diagnosis questionnaire: test of reliability," *Journal of Alternative and Complementary Medicine*, 13:1, 111- 122, 2007.
- 13) Do JH, Jang E, Ku B, Jang JS, Kim H and Kim JY, "Development of an integrated Sasang constitution diagnosis method using face, body shape, voice, and questionnaire information," *BMC Complementary and Alternative Medicine*, 12, article 85, 2012.
- 14) Do JH, Ku B, Jang JS, Kim H and Kim J. "Analysis of Sasang constitutional types using facial features with compensation for photographic distance," *Integrative Medicine Research*, 1:1, 26-35, 2012.
- 15) Jang E, Kim JY, Lee H, Kim H, Baek Y and Lee S, "A study on the reliability of sasang constitutional body trunk Evidence-Based Complementary and Alternative Medicine 13 measurement," *Evidence-Based Complementary and Alternative Medicine*, Article ID 604842, 8, 2012.